

令和4年3月29日

生駒市長 小紫 雅史 様

生駒市環境マネジメントシステム推進会議
会長 矢田 千鶴子

環境監査報告書

生駒市環境マネジメントシステム推進会議(以下「当会議」という。)は、令和2年度における貴市の環境マネジメントシステムに基づく取組に関して、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1.総合所見

1-1 全般的事項

昨年度の監査から、第3次生駒市環境基本計画、第2次生駒市環境モデル都市アクションプラン、生駒市SDGs未来都市計画の3つの計画に基づく施策の進捗管理を行っています。市の活動や、市内の事業者を含めた地域の皆さんの活動によって生じる様々な環境負荷を減らすために、継続的に取組を改善し、環境行動を推進するためのしくみとして、新たな「生駒市環境マネジメントシステム」を運用しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、各部署へのヒアリングは事務局を通じて実施することとなりました。各部署へ直接訪問してヒアリングができなかったことは残念ですが、取組内容は着実に進捗していることを確認できました。

今後もしばらくは新型コロナウイルス感染症の影響が続くと考えられるので、状況に応じた監査方法の検討を進めていただきながら、各部門のより一層の連携強化を図り、この環境マネジメントシステムを重要な仕組みとして長期的に推進されることを期待します。

1-2 個別的事項

(1) 各計画に基づく環境関連事業一覧

【調査票】令和2年度の取組結果及び令和3年度の取組計画(目標)

それぞれの所属が第3次生駒市環境基本計画、第2次生駒市環境モデル都市アクションプラン、生駒市SDGs未来都市計画の3つの計画における具体的な事業を進めており、令和2年度の取組結果及び令和3年度の取組計画を記入していただきました。来年度以降も予定通りに各種事業を進めてください。

(2) エコオフィス、独自施策の取組状況等

【エコオフィス取組状況アンケート】

前年度よりは回答数が多くなりましたが、回答率はまだまだ低いと感じるので、来年度以降の実施時には、より多くの周知を行い、回答率が上がるような実施方法を引き続き検討してください。

1-3 各部署の監査方法について

今年度は、コロナウイルス感染症拡大のため、各部署へのヒアリングを中止しました。各部署へのヒアリングは事務局が代行し、当会議では、ヒアリング内容を踏まえて取組状況を監査しました。直接訪問してヒアリングができなかったため、現場の空気や雰囲気をつかむことができなかったことは残念ですが、取組が着実に進捗していることを間接的に確認できました。

今回、ヒアリングの対象にならなかった所属の方々についても、引き続き日常的な環境活動の啓発をしてください。

2.実施概要

2-1 実施方法及び監査対象

次のとおり、監査を実施しました。

	監査対象とする項目	監査対象所属
書面監査	・環境基本計画、アクションプラン、SDGs 未来都市計画に定めている各事業の取組状況	各計画の個別事業担当所属 24 ヶ所 総務課、防災安全課、市民活動推進課、SDGs 推進課、農林課、商工観光課、男女共同参画プラザ、環境保全課、清掃リレーセンター、地域包括ケア推進課、健康課、管理課、事業計画課、土木課、都市計画課、学研推進室、住宅政策室、建築課、みどり公園課、花のまちづくりセンター、下水道課、浄水場、こども課、子育て支援総合センター
エコオフィス取組状況アンケート	・エコオフィスの取組(全職員に共通した取組)、本来業務における環境配慮、独自施策(各部署の取組)の取組・実施状況	全所属
ヒアリング監査	書面調査票及びエコオフィスの取組・実施状況についての回答内容	上記の書面監査対象所属のうち、事務局が選定した 10 所属 総務課、防災安全課、市民活動推進課、SDGs 推進課、農林課、商工観光課、環境保全課、清掃リレーセンター、みどり公園課、花のまちづくりセンター

2-2 実施内容

提出された所属毎の書面調査票とエコオフィス取組状況アンケートの回答結果について、事務局から各所属へヒアリングを実施。さらに追加の質問を委員から提出し、会議当日にヒアリング内容を踏まえて取組内容を監査しました。その後、ヒアリングの内容を踏まえて評価シートへ「評価できる点」「改善を要する点」を記入しました。

・書面監査及びエコオフィス取組状況アンケート

個別事業に関する進捗状況等【調査票】、【エコオフィス取組状況アンケート】を使用。調査票は該当所属のみ、エコオフィス取組状況アンケートは全職員対象(小中学校、指定管理者を含む施設等)

・ヒアリング監査

①ヒアリング先の選定

全ての所属の中で、以下の観点から8つのヒアリング項目を選定しました。

【選定の観点】

- ・書面調査票の中から、施策の達成状況が「取組計画(目標)どおり実施できた」「ほぼ取組計画(目標)どおり実施できた」と選択され、計画通り実施されている項目は対象外とし、課題・改善方針について記載がある項目を選定
- ・SDGs 推進課の記載分

②ヒアリングの実施

提出された帳票をもとに、事務局が各所属へヒアリングを実施しました。

3. 監査結果

3-1 各所属の監査結果一覧

所属名	評価できる点	所見
総務課	・公用車にハイブリッド車を導入し、CO2削減へ取り組んでいること。 ・公用車に電気自動車の導入を進めていること。	・市民が公用車の電気自動車を目にする機会が少ない。さらなる利用促進を図っていただきたい。
防災安全課	・ハザードマップの配布など、災害防止のための活動が行われている点。	・危険度合いが一般市民には分かりにくいいため、工夫していただきたい。
市民活動推進課	・複合型コミュニティづくりは、住民のだけれども参加できるコミュニケーションの場となっている点が評価できる。	・さらに多くの自治会において、その地域にあった複合型コミュニティづくりが進むことを期待する。 ・複合型コミュニティづくりを主体的に運用する自治会員の多様化が求められる。 ・集会所等は公共施設に準じた施設で、太陽光発電設備の設置の意義は大きいため、引き続き積極的に検討していただきたい。

農林課	<ul style="list-style-type: none"> ・森林現況調査は、調査結果に基づき、改善や経過観察など課題の整理ができている点が評価できる。また、放置竹林の所有者調査も実施されていることも評価できる。 ・今後の取組として、サラリーマンや主婦などの層が趣味的に農業を始められるような支援を検討していること。 ・遊休農地活用事業での利用割合が高いこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林現況調査において危険な地点が確認された場合は、民有地なので行政指導は難しいが、事故が起きる前の予防策が大事である。 ・森林ボランティアなどの活動も存在するので、有効に活用していただきたい。 ・学校給食の供給力を増加させるために、遊休農地利用者や農業を趣味で始める人々を活用する方法があると考えます。 ・遊休農地はまだあるので、農家にさらに働きかけをしていただきたい。
商工観光課 (観光振興課)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内周遊消費喚起促進事業において、コロナ感染症による経済支援を市内の観光資源と結びつけたこと ・生駒山を中心としたワーケーション受入れプログラムや生駒市ならではの体験コンテンツの販売などを検討されていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ、生駒市が観光で注目されていると言いきれない。ストーリー性を持った観光 PR を何か考えられないだろうか。 ・スローツーリズムのプラン作りにおいて、地域の人々と交流する、という視点を入れてはどうか。
清掃リレーセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・家具のリユース販売でオークションを導入したこと。先着順より公平性が保てるし、収入増につながっている。 ・コロナ禍でいろいろな配慮を行いながら、実施されている。市民も活用しているように思われる。 ・有用品の活用、資源の再利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が収束すれば、環境フェスティバルなどのようなイベントの際にリユース市を実施することも市民の関心を引く可能性があると思う。
みどり公園課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民とのワークショップにより、遊具の選定や公園の活用を検討したこと。 	
花のまちづくりセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の手法のみでなく、SNS などを利用した PR 活動を実施したこと。 ・公共スペースの花壇が季節ごとに整備されており、緑視率を高めていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に若い年齢層を取り込むための努力を引き続きお願いしたい。 ・景観コンテストは、HP での市民投票などで選ぶ枠を設けて、参加者を増やす手法はどうか。
SDGs 推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・いこま市民パワーが、環境モデル都市・生駒の中心的な組織となっていること。 ・環境マネジメントシステムを市民目線で監査等を実施していることには意義がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フードドライブ、食品ロス削減は、環境保全課と連携を深めさらに前進していただきたい。食品ロス削減協力店制度を効率的に運用するための懇談会の開催も有効ではないか。 ・いこま市民パワーのさらなる認知度向上に向けて、自治会への働きかけをお願いしたい。 ・監査の対象となる計画等が多岐にわたるため、次期は、計画やプランごとにグループ分けするなど、メンバーの募集・運用に工夫が必要である。 ・多くのグループが環境問題に関して活動されているが、グループ間の繋がりが必ずしも多いといえないため、その点を打破する試みを企画していただきたい。特に若い年齢層と高齢者層を繋ぐ試みが望ましい。 ・施設見学は、見学者がさらに増えるように、PR 活動をお願いしたい。そして見学が単発で終わらずに、次の行動に繋がるような工夫をお願いしたい。

全体	<p>・イベント等の行事は、多くの市民が参加できるように、PR、実施日等を市民に知らせる工夫が必要である。また、参加登録がわずらわしく敷居が高くなっていると感じるので、併せて検討してはどうか。</p>
----	--

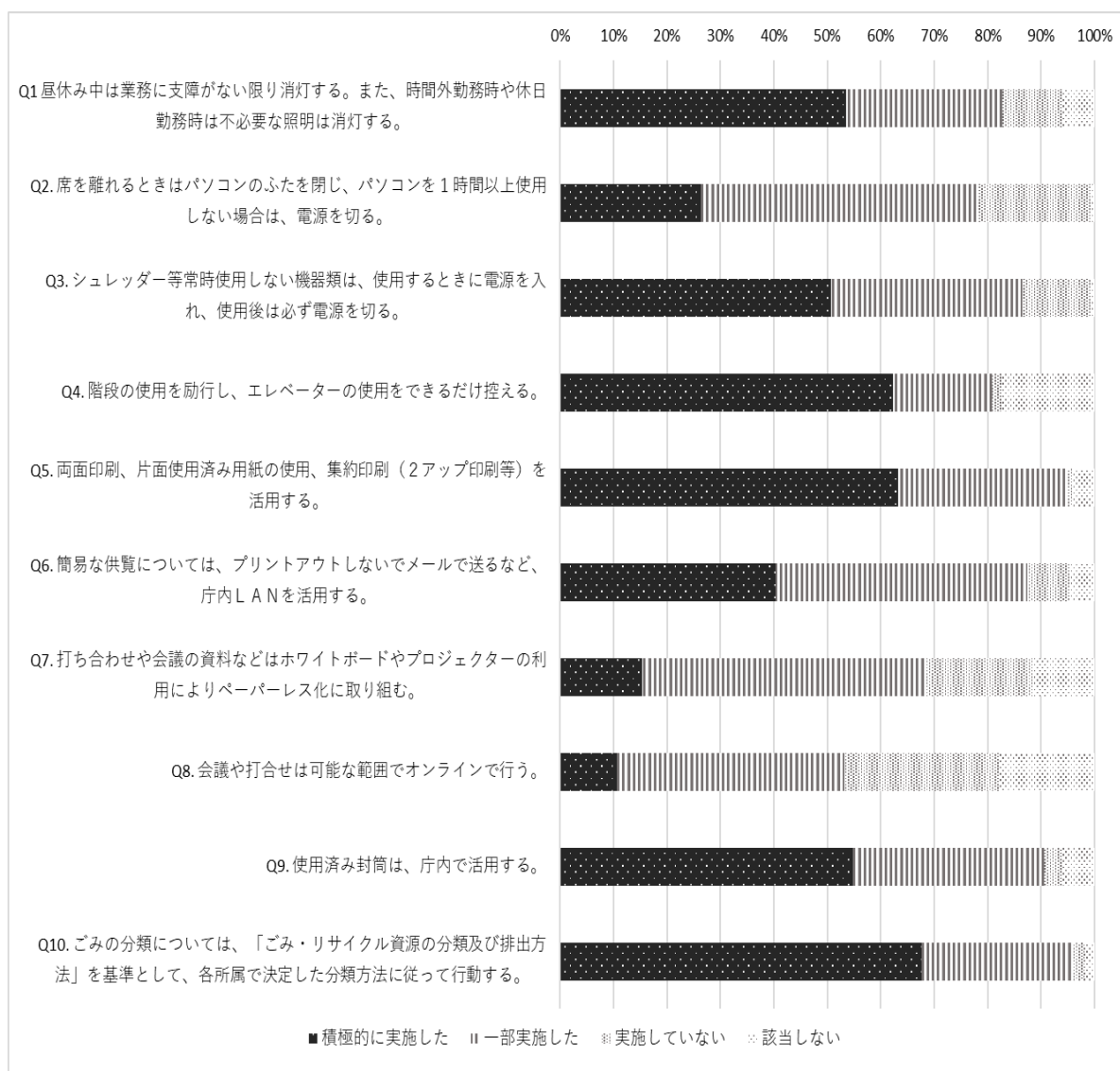
4.次年度の運用における改善点

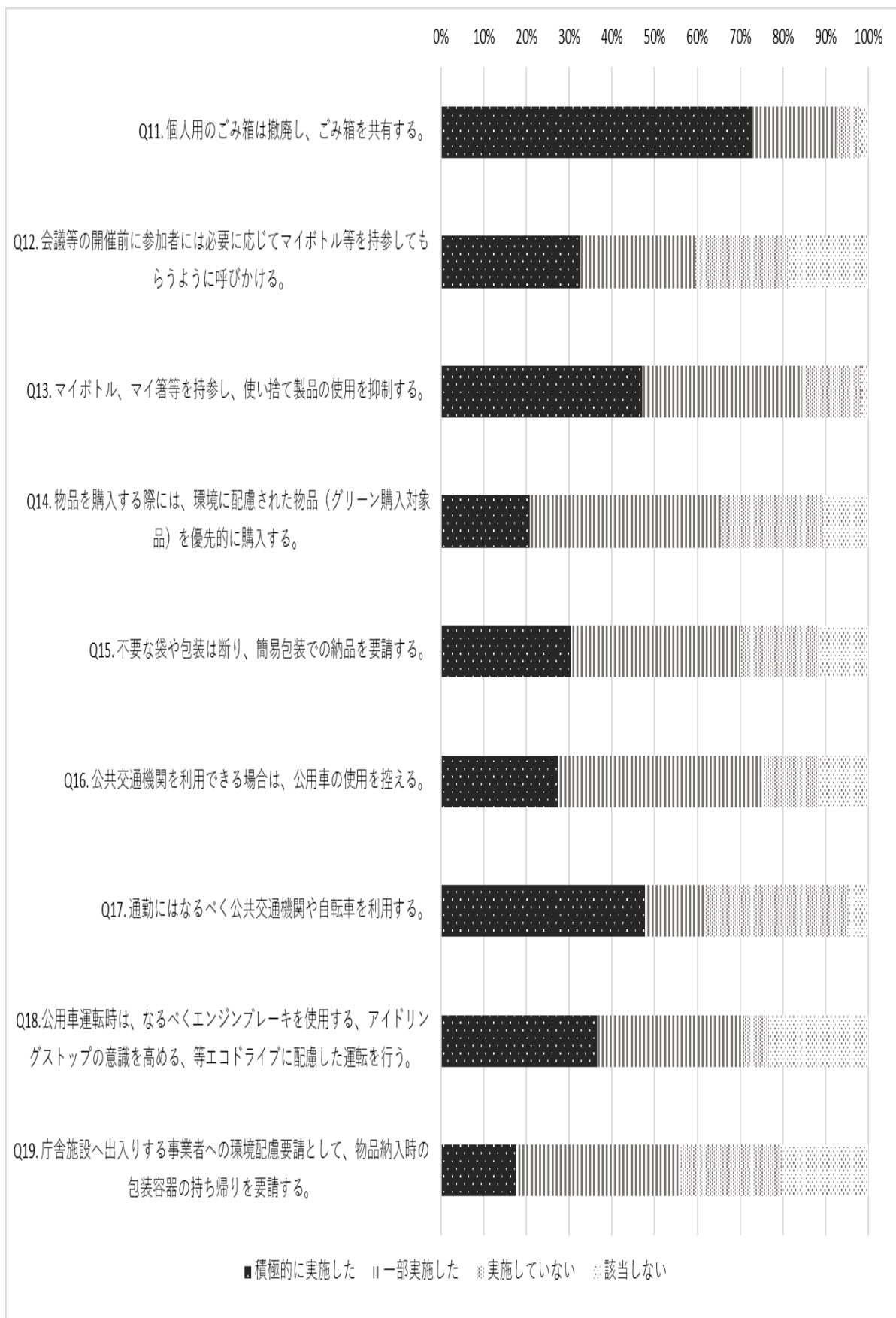
今年度の運用において、以下のような改善点がありましたので、次年度の運用方針等に反映してください。

- ・今年度は班ごとの監査ではなく、全体を確認するために調査票が一覧になっており、全体像が掴みにくかった。取組ごとの一覧は、計画との関わりは把握できるが、課ごとの評価が難しい。
- ・委員数を増やして部会に分ける、学識や団体代表にも委員になっていただき専門分野を評価していただく、などの工夫が必要と考える。

5.エコオフィス取組状況アンケート回答結果

実施期間：令和3年10月13日～11月12日





Q20:エコオフィスの取組で、Q1から Q19 以外のことを実施されている場合、以下にご記入ください。

- ・会議室や打合せコーナーへのディスプレイ配置、ペーパーレス会議に必要な庁内 WiFi の整備、グループウェア・Web 会議環境の整備
- ・昼食はなるべく手作りのお弁当を持参している。
- ・会議の開催時間は、短時間で終了する様取り組んでいる。
- ・雨水タンクを利用し、幼児が栽培物に水やりをしています。
- ・落ち葉を利用して腐葉土をつくり、園の畑の土作りに利用しています。
- ・再利用できるものは修理・工夫しながら使用し、ごみの分別についてもごみ箱を減らすなど徹底して取り組んでいる。また、使用していない電化製品の電源コードをこまめに抜くなど、連携をとりながら職員間で協力して取り組んでいる。
- ・子ども達と一緒にごみの分別に取り組む。
- ・古紙回収で再生紙等は回収してもらう。
- ・衛生面に配慮して、廃材を利用した玩具や環境作りをしている。
- ・担当の職員を中心に、子ども達が分かりやすく学ぶ機会を作り、エコ推進の取り組みをしている。
- ・壁面装飾の再利用
- ・会議等の機会を利用して、エアコンの使用や紙の節約等を職員に要請している。
- ・会議時等配布資料は裏紙に印刷をする、
- ・トイレや廊下の自動消灯設定。校舎屋上のソーラーパネル設置。発電量のモニター掲示。
- ・給食の牛乳パックを回収時に全てたたみ、ビニール袋を節約する
- ・自身所有の資料作成時は針なしホチキスを使用し、資料の廃棄時はできるだけ再生利用に回している。

Q21:エコオフィスの取組以外で、本来業務における環境配慮や所属で取り組んでいる独自の環境施策があれば、以下にご記入ください。

- ・節電対策(間欠運転の実施等)
- ・刊行物に大豆油インクを使用している。
- ・冷暖房の使用を控えるように心がけています。
- ・SDGsについて絵本等を用いて、子ども達に環境について知らせたり、ごみ箱を分け、ごみの分別に取り組んでいる。
- ・各種スイッチ等に「節電」のシールを貼りつけて、職員が節電を意識するようにしている。
- ・SDGs 等の研修を検討
- ・スーパーエコスクール認定以来、学校全体での環境教育の推進とエコ活動の取組継続。
- ・グリーンエネルギーの電力使用、会館の設備照明の LED 化